

学校の怪談

中村まさみ
Masami Nakamura

5分間の
恐怖

廃校で見えたもの...



廃校で見たもの…

中村まゆみ

学校の怪火
三分間の恐怖



わたしは怪談好きが集まるSNSのグループ

「ゴーストコンテンツ」の管理人。

ここには、さまざまなこわい話、ふしぎな話が
日本全国、海外からもよせられる。

子どもたちが体験した、身の毛もよだつ怪異もね。
なかでも「学校の怪談」が多いのは

「学校」というところが、

なにか特別な場所だからだろうか……？



もくじ

レポート1 学校にひびく怪音……………6

レポート2 「呪」という文字の意味……………22

レポート3 聖地の貝……………36

レポート4 廃校で見たもの……………54

レポート5 お化けの町……………69

レポート6 オニガヨイ……………85

レポート7 拾っておいたよ……………99

レポート8 かわっていく絵……………115

レポート9 ここだよ……………128

レポート10 海のそこで見たもの……………144

海のそこで見たもの

おれは海が大好き！

生まれそだった場所が、海からは遠いということもあって、大人になったら、ぜったい海の近くに住むって決めているくらい。

でもうれしいことに、海辺に住んでいる親せきがいて、小さいころから夏休みのあいだは、ずっとその家におじやまさせてもらってるんだ。

そして今年は夏休みにくわえて、臨海学校がある。海に行く回数が一回、増

えるんだよ！

とにかく臨海学校の時期が時期だけに、台風がこないように、毎日いのつてたよ。

そしていよいよ、今日は臨海学校に出發の日。

まだ夜が明けきらないうちに起きたおれは、母ちゃんが作ってくれた朝ごはんをたべて、集合場所の校庭にむかった。

さすがにくるのが早すぎたとみえて、まだきている人数は少なかったけど、そのなかになかよしのアサヒを発見。

「おはよう！」

そう声をかけながら近づいたんだけど、なんだかようすがおかしい。

「なんだよ、アサヒ。朝から母ちゃんにでもしかられたか？」

するとアサヒは真剣な顔をして、こんなことをいいだした。

「実はさ、出かけようと思ってげんかんにむかったら、二階からばあちゃんがおりてきて、とつぜん、いやなことをいうんだよ。」

『アサヒがきょう、むかうのは、石木海岸だろ？ あそこは過去に死人がたくさん出とって、この時期にやあ足い引っぱられるで、きいつけにやらん』

おれさ、おまえも知ってる通り、そういうのだめなんだよなあ。なんか一気にテンション下がっちゃって、いきたくなくなっちゃったわ」

実はアサヒ、本当にそういう話に弱くて、ちよつとでも幽霊やお化けが出てくる話は、完全にシャットアウトしている。

せっかく楽しい旅行にむかう直前に、そんな話をおばあちゃんから聞かされるなんて、たまったもんじゃない。

「だいじょうぶだいじょうぶ、そんなの都市伝説だよ！」

ほかの友だちも、いつしよになだめて、なんとかアサヒは元氣を取りもどしたけど、彼のばあちゃんがいったというその話、おれはしんじていないわけじゃなかったんだ。

とにかく友だちと、海辺にとまるといのがうれしすぎて、おれは、きのう

のばん、石木海岸かいがんのことを、ネットで調べまくってたんだよ。

確かにそこはすてきな場所ばしょで、海にしずむ夕日ゆづりが、観光スポットとして有名な海岸かいがんだった。

と同時に、あやしい情報じょうほうも、わんさか出てきてさ、いちばん多かったのはこんな話だった。

石木は、太平洋戦争たいへいようせんそうの空襲くうしゅうにより、ほぼかいめつ状態じょうたいとなった。

そのひがいは千八百人に上り、多くの人々は海岸かいがんにあるどうくつへとむかったが、そこにたどりつけた人は、ほんのわずか……。

以来いらい、海岸かいがんへとつづく道や、その先にあるトンネルなどに、血だらけの子ど

もをだく女性じよせいや、助けをもとめて歩きまわる亡霊ぼうれいが出るという。

なかでもおそろしいのは、海のなかから助けを求めもと、ぞろぞろと涙なみだにはいあがってくる、大勢おおぜいの人のすがた……。

正直しんじいって、おれはしんじちやいないよ。

しんじちやいないのに、アサヒのばあちゃんの話がプラスされたもんだから、なんだか一気いちきにおれのなかでも『本当の話』のようになっちゃったんだ。

そうこうしているうちに、バスの出発時間しゅつぱつじかんとなり、学校から、バスにゆられること三時間半、目的地もくてきちである、石木海岸かいがんにとう着ちやくした。



宿泊場所しゅはくばしょにそれぞれ荷物にもつをおいたあと、体育館たいいくかんのような場所ばしょに集あつまって、先生せんせいからこまかい注意事ちゅういじこうが伝つたえられた。

それからお楽しみの弁当べんとうを食べおわり、水着みずぎに着きがえると、いよいよ海の時間かんだ！

海岸かいがんにつづく道をみんなで歩あるいていると、朝あさ以上に落おちこんでいる、アサヒのすがたが目にとまった。

「どうした、アサヒ？」

するとアサヒは、おれの顔も見ずに話わしだした。

「ここに着つく少しまえ、細いトンネルを通よこっただろ？」

おれさ……見みちゃったよ。バスの横よこぎりぎりのところを歩あるく、女の人と子ど

私たち……。

まどから見てるおれに気づいて、歩くのをやめて、じっとこちらを見つめてさ。

おれ……おれ……その女のひと、目が合っちゃったよ」

昨夜、おれがネットで検索したことは、いっさいアサヒには話していない。
なのに、あの辺に出るとわさの幽霊と、アサヒが見たというものとは、完全に一致している。

「なんだかおれ、すごくいやな予感がしてならないんだ。
だから、おれ、すごく楽しみにしてたんだけど、おなかがいたいってうそつ

いて、海には入らないでおくよ……」

そういつてむりしてわらうアサヒが、かわいそうでならなかった。

「だったら、おれも入るのやめるよ」

「それはだめだって！ おまえ、海、すごく楽しみにしてたじゃん」

そういうので、せめて、アサヒの目のとどくところで泳ごうって思ったんだ。

体育の志田先生の号令で、全員、準備体そうをすませ、かんかんでりのお日様のもと、みんなで真っ青な海へととびこむ。

「いやっほー！」

「おーい、いいわすれたが、ここにはさまざまな海洋生物がいるから、それら

の観察もわすれ……おい、聞いているかー！」

先生のことばに、だれひとり、返事をする者はなく、キャーキャーワーワーと、もうほとんど動物園のサル山のようになっている。

浜の木かげにすわって、アサヒがぼーっと海をながめているのが見える。

（アサヒは本当に、海に入るつもりがないんだな……。）

そうだ、せめてその海洋生物とやらを取ってきて、見せてやろう！

そう考えたおれは、少しはなれたところに見える、大きな岩を目ざして泳ぎだした。

岩場に行けば、貝でもウニでも、なにか見つけることができるだろう。

こう見えておれは、学年で一番の無呼吸潜水の記録保持者。一度水面で大き

く息をすいこむと、岩伝いに水中にもぐり、そこに生息しているはずの、生き物をさがしはじめた。そしてそれは、すぐに見つけることができた。

（お、ムラサキウニ発見！ もうひとつくらいなにか見つけたいな……）

そう思いながら、さらに深くもぐろうとしたときだった。

とつぜん、頭の上の方が、ぐわつと暗くなるのがわかり、どきつとした。

サメのような大型の魚があらわれると、太陽の光をしゃ断して、周囲が暗くなる……と、父さんから聞いていたからだ。

おそろおそろ海面を見あげる。

！

サメがいる以上におどろいた。

なんと太陽の光をしゃ断していたのは、大きな魚なんかじゃなく、大勢の人だったんだよ。

そのときおれがいたのは、水深三〜四メートルほどの海底だと思うんだけど、いま自分がいるところから、はるかむこうまで、何百という人が立ち泳ぎしているんだ。

どこを見まわしても人、人、人！ そのあまりに密集した状態のせいで、まるで深海のように真っ暗になっている。

おどろいたおれは、あわてて海面に出ようと浮上するんだけど、はげしく足

をばたつかせている人たちにじやまされて、まったく上へ上がれない。

そうしているうち、だんだん息がつづかなくなってきた。

（だ、だめだ、もうだめだ……父さん、母さん……）

意識がもうろうとしてきて、体から力がぬけそうになった、次のしゅんかんだった。

友を思う気持ち わすれるでないぞ

とつぜんそんな言葉が、頭のなかにひびいたかと思うと、おれは、ものすごい力で体を上へと引きあげられ、ぽっかり水面にうきあがることができた。

中村まさみ

北海道岩見沢市生まれ。生まれてすぐに東京、沖縄へと移住後、母の体調不良により小学生の時に再び故郷・北海道に戻る。車専門誌のライターなどをへて、現在、ファンキー中村の名前で、実際に体験した実話怪談の語りべとして、全国各地で怪談を語る「不安奇異夜話」、怪談を通じて「命」を伝える「道徳怪談会」を開いている。YouTube では「Ghost Contents」を配信中。

著書に大人気シリーズ「怪談 5 分間の恐怖」(全 20 巻・金の星社)のほか、『不安奇異夜話 不明門の間』(竹書房)、オーディオブックCD『ひとり怪談』『幽霊譚』、監修作品に『背筋が凍った怖すぎる心霊体験』(双葉社)、映画原作に「呪いのドライブ しあわせになれない悲しい花」(いずれもファンキー中村名義)などがある。

- 組版・校正 株式会社鷗来堂
- 本文挿絵 mona
- 装 画 岡添健介
- 装 丁 青木恵美

学校の怪談 5 分間の恐怖 廃校で見たもの…

初 版 発 行 2023 年 3 月

作 中村まさみ

発 行 所 株式会社金の星社
〒111-0056 東京都台東区小島 1-4-3
TEL 03-3861-1861(代表) FAX 03-3861-1507
振替 00100-0-64678
ホームページ <https://www.kinnohoshi.co.jp>

印刷・製本 図書印刷株式会社

159 ページ 19.4cm NDC913 ISBN978-4-323-05935-8

乱丁落丁本は、ご面倒ですが小社販売部宛にご送付ください。
送料小社負担でお取り替えいたします。

© Masami Nakamura, mona and Kensuke Okazoe 2023
Published by KIN-NO-HOSHI SHA, Tokyo Japan

JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。
※本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

新鮮な空気をめいっぱいいいすいこみ、意識を取りもどしたおれは、あわててまわりを見まわしてみた。

だけど、海底から見えた大勢の人のすがたなど、どこにもなかったよ。

さっきの声は、いったいなんだったんだろう。

何十年も昔、その海岸で起きた悲しい事実を、ネットで知ったおれと、ばあちゃんから聞いたアサヒにだけ、まるで証拠ともいえるものを、見せたのだから。

学校の怪談

中村 誠
Makino Makoto

挿画 mona
装画 岡添健介



だれもない音楽室



花子さん？ だれそれ？



恐怖の校内放送



13 階段



理髪店から来た幽霊



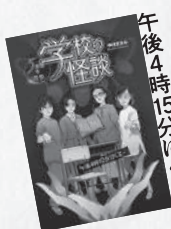
おがんではいけなら



お風呂から来た幽霊



臨死体験



午後4時15分にくる...



わたしの髪をかえして...



幽霊トンネル



近しい人...



地下室で待ってるよ...



心霊本



廃校で見たもの...